

# 質問通告書

次の件について質問の通告をいたします。

令和6年8月19日

質問者氏名 塚原正彦

牛久市議会議長 殿

|  |      |   |      |
|--|------|---|------|
|  | 一般質問 | ○ | 一括方式 |
|--|------|---|------|

| 質問事項   | 要旨  |
|--|---|
| 1 牛久フードテックコミュニティ構想について<br>一食と農と薬と環境を融合した新しい地域産業をつくる一 | <p>世界の人口は、2050年には95億人への増大が予測され、環境問題の深刻化とあわせて地球の食料生産力は限界となる。それに加え、健康や人々の生活価値の変化を視野にいれながら新しい科学と技術を総動員して食の課題解決に挑み、人と地球にやさしいプロジェクトをうみだす「フードテック」というビジネステーマが注目されている。</p> <p>「フードテック」による将来的な市場規模は360兆円とされ、政府は、「フードテック」を日本発の食料・環境問題の解決に貢献する新しい産業と位置づけ自治体、企業が参加するモデルプロジェクトを開始している。</p> <p>牛久市とその近隣には、農と生薬の研究開発、製造を担う日本を代表する企業と研究機関が集積しており、それに生活者が参画する地域づくりを加えることで、世界を視野にいれた「フードテックコミュニティ」を提起できる。「日本ワイン140年史～国産ブドウで醸造する和文化の結晶～」で日本遺産の認定を受ける牛久シャトーは、研究と博物館機能を強化できれば、拠点施設となる可能性を持っている。</p> <p>上記の社会的背景を視野にいと、牛久市は、「フードテックコミュニティ」を提起し、関連する企業、研究所、起業家を結集する協議会の設置などを展開し、シンポジウムの企画、牛久グリーンファーム（株）を組織替えして、「フードテック」の農をテーマとする実証実験を検討すべきである。</p> <p>「牛久フードテックコミュニティ」は、新しいコンセプトでの企業誘致を推進し、稼げるまち、選ばれるまちの実現を可能にする。以上の新規プロジェクトをスタートするための仕組みづくりを提案するがその考えを伺う。</p> |

